

別紙1 野々市市遺跡調査指導委員会の概要

1. 委員名簿

役 職	氏 名	備 考
委員長	みうら すみお 三浦 純夫	野々市市文化財保護審議会委員
副委員長	まつむら けいじ 松村 恵司	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所前所長
委員	かわばた まこと 川畑 誠	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター所長
委員	かじわら よしみつ 梶原 義実	名古屋大学大学院人文学研究科教授

2. 令和5年度の委員会

第1回：9月21日（木）

第2回：10月25日（水）

3. 委員会の要旨

- 令和5年度の末松廃寺跡発掘調査の進捗状況を確認し、発掘調査の成果について検討を行った。（調査成果の概要は別紙2・3）

別紙 2 令和 5 年度の発掘調査について

末松廃寺跡の再整備に伴う発掘調査は平成 26 年度から実施しており、令和元年度から令和 5 年度にかけて、寺院の中核となる建物である金堂（こんどう）の発掘を行っている。今年度は金堂の北西部の発掘調査を実施している。

昭和 41・42 年に実施された発掘調査では金堂は 7 世紀後半に建立された建物と、その後廃絶されたのちに再建された建物の 2 時期存在すると考えられてきた。このうち再建された金堂に伴うと考えられてきた玉石が一面に敷き詰められた「玉石敷き」について、令和 2 年度・4 年度、および今年度発掘調査を実施した。

この結果この玉石敷きは「掘込地業（ほりこみぢぎょう）」と呼ばれる古代寺院等の建築に用いられる地盤改良工事の痕跡の一部であることが明らかになった。掘込地業は建物基礎を強固にするために行う、地面を掘り下げたのちに粘土や砂、礫などを突き固めながら埋め戻す地盤改良工事で、屋根に瓦を葺くなど上屋が重い建物に対して用いられることが多い。

今年度の調査では、掘込地業と玉石敷きの北西隅を検出し、その範囲について確認した。

別紙3 発掘調査実施範囲図

